

2011年8月1日 2011年度 JANNET研究会

CBIDおよびCBRガイドラインの概要 「関係者分析」

日本CBRネットワーク 渡邊 雅行
cbr-net@umin.ac.jp



ネパールのCBRの特徴

1. 村、郡などのレベルでのプロジェクトが多い。
 - 多政党・NGOと地方自治の推進
 - 多民族、多言語、多文化、カースト制の影響
2. 障害者のCBRへの参加類型 2
 - 1)障害者はサービスの対象者...医学モデル
 - 2)障害者がCBR活動(対象者障害者のみ)
 - 3)障害者がCBR活動(対象は、障害者のみならず貧困な女性なども含む)
 - 4)障害者がCBR活動(対象は、地域住民だが障害の啓発が主)
 - 5)CBRの枠組みで障害当事者団体を自助団体として尊重
リハビリテーション委員会への参画
(海外)研修参加
3. 事例 **Kaski郡 Dhikurpokhari 村**
(全般的な地域開発: 住民組織化、収入向上プログラム、小規模融資)

ネパール連邦民主共和国
KASKI郡 DHIKURPOKHARI 村



3

3

CBRの事例紹介



4

関係者分析におけるキーパーソン

1. 障がい当事者
 - ・CBR委員会委員、自助団体（インドにて研修）
 - ・2人の障がい者がCBRワーカーとして活動
 2. 地域住民
 - ・住民の組織化:
 - 貯蓄グループが基本 障害者・障害者の家族、女性が混在
 - 地域開発(まちづくり・むらおこし)に関する活動に、障害者・非障害者が混成してグループが形成されている。リーダーに障害者や障害者の家族がなっているグループもある
 - 障害児・子どもの意見の表明、参加などは課題
 3. 市民
 - ・ボランティア、教員、ヘルスポスト(薬局)、商店主、農家
 4. CBRマネージャー ・良きファシリテーター ・ネットワーク ・企画
- 【サービスの対象】 CBRの対象を障害者のみとしていない。村の貧困、病気などについて、会合(定例会)をもち、地域開発プログラム(職業訓練、収入向上プログラム、小規模融資)などに、障害の有無にかかわらず参加している。